

北海道教育大学釧路校教育学部教員養成課程「高等学校地理歴史科教育法 1」（2年生以上）授業実践報告

竹ヶ原, 康弘
北海道教育大学釧路校教育学部教員養成課程 : 非常勤講師

<https://hdl.handle.net/2324/4822573>

出版情報 : オンライン授業の地平 : 2020年度の実践報告, pp.70-70, 2021-04-30. 雷音学術出版
バージョン :
権利関係 : Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike International

1. 授業の目的と概要、授業内容、成績評価の方法等

本授業は、前半は講義形式で高等学校地理歴史科に関する目的・意義・カリキュラム構成、授業構成、評価に関する理論的な知識の習得を目指す内容を展開する計画であった。具体的な計画として、第2週・第3週で高等学校地理歴史科の歴史・目標・内容構成について説明し、第4週から第7週では地理歴史科各科目の歴史と内容、そして評価についての説明を計画していた。

第8週から第10週は演習形式で、自らの専攻及び研究を生かした高等学校地理歴史科の授業開発、あるいは本授業を通して学んだことを活用できているかどうかの確認として模擬授業を作成してもらい、第11週から第15週で模擬授業を実施する計画を立てていた。

評価は、出席点に加え、第2週から第7週までの内容についての論述式試験、及び、第8週以降の模擬授業の内容と提出された指導案・レポートの内容を評価の対象とする予定であった。

当地は後期授業の開始当初は感染症の影響が少なく、後期の授業開始から第10週までは計画通りに対面で授業を進めることができた。しかし、2020年度の前期に生じた予定変更の影響もあって学生が揃わない回も多かったため、授業をZoomで配信、または録画し、動画をサーバーにアップロードすることで対応した。結果的にハイブリッド授業となったわけである。

全国的なコロナウィルスの感染拡大を受け、第11週以降は学内での感染や感染の拡大を防ぐために可能な限り遠隔で授業をすることとなったため、対面授業での模擬授業の作成と実施の予定を変更する必要が生じた。そこで、模擬授業は受講生が教育現場に出た後に遠隔授業に対応するための練習と位置づけ、1時間分の授業の動画を作成する形に変更した。この変更に伴い、授業後半の評価は模擬授業の動画と提出された指導案・レポートの内容で評価する形に変更し、後半の出席点は参考にとどめた。

突然の授業内容の変更であったために学生の負担が増えたが、模擬授業を録画した動画が提出された。

録画はスマートフォンを使用したもので、動画の編集や文字情報の追加などは無かったが、指導案通りの模擬授業が提出された。

2. 今後の課題・可能性、もしくは受講生の反応等

学期の前半こそ対面・遠隔の併用であったが、途中で授業形態を変更する必要が生じたため、後半は遠隔のみとなっている。授業の感想アンケートに回答した学生がいないために受講生の反応を紹介することはできないが、急な変更にも関わらず対応してくれた受講生諸君には感謝している。ただし、学生も現場での勤務を想定して動画を作成する必要性を考えていたらしく、対面での模擬授業を動画での実施に変更したことについては理解されたようである。

また、本授業のように教員を志望している学生が模擬授業を作成する授業では、コロナ禍の影響が長期に及んだ場合に備えての教材開発訓練として、動画作成や編集、あるいは遠隔授業の実施方法についても授業内で展開する必要があると考える(必要であれば、そのための授業を設定するべきであろう)。また、教員の側でも遠隔授業や動画作成のノウハウを蓄積する必要があると感じた。